

# 施策評価シート【分野別施策】

施策名		関係部					
1 -	活発な市民の交流を促進する	企画政策部、市民部					
所管事業に関連する成果指標							
指標名	単位	改訂計画 策定時	実績値				5年度 目標値
			2年度	3年度	4年度	5年度	
友好都市との小学生交流事業の参加者数（年間）	人	-	19,179	0			320
国際交流活動推進事業参加者数（年間）	人	4,509	1,006	1,065			6,190
外国籍市民相談窓口人数（年間）	人	166	461	1,035			1,680
市民・大学交流委員会主催の事業数（年間）	事業	14	6	10			18
関連事業							
市民・企業・大学等交流事業 国際交流活動推進事業 友好都市交流推進事業 多文化共生推進事業							
決算額							
	2年度	3年度	4年度	5年度			
事業費(千円)	6,935	10,851					
執行率(%)	50.56	73.67					
施策の推進に向けた主な取組の「成果」							
<p>「友好都市との交流」 新型コロナウイルス感染症の影響で小学生交流を含めた多くの事業が中止となりましたが、三市合同物産展や七夕まつり郷土芸能披露を新しい生活様式に沿った形で実施することにより友好都市との交流を継続することができました。</p> <p>「姉妹都市との交流」 ローレンス市とオンラインで交流し、令和4年度に姉妹都市提携30周年記念事業をオンラインで実施することに合意しました。</p> <p>「多文化共生社会の推進」 テレビ通訳システム等の活用により外国籍市民相談窓口を15言語で対応し、外国籍市</p>							

民が母語で相談できるよう努めました。また、出入国管理・在留資格相談を月1回実施し、国と連携して外国籍市民を支援しました。

「市民・大学交流」

平塚市民・大学交流委員会の文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光の5つの推進部会により、10の事業を実施し、相互の交流が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定していた事業の中止がありましたが、開催方法の工夫により前年度から事業数や参加者数が増加しました。

**施策を推進する上での「課題」**

「友好都市との交流」

新しい生活様式や市民ニーズに合った事業実施について、各友好都市と協議する必要があります。

「姉妹都市との交流」

ローレンス市との交流について、社会情勢等を鑑みながら継続・推進していく必要があります。

「多文化共生社会の推進」

現状の15言語で対応できない場合もあることから、「やさしい日本語」の活用を推進していく必要があります。

「市民・大学交流」

市民、企業、大学等の交流を促進するため、より多くの参加者が得られるよう工夫を凝らす必要があります。

**課題解決を図るための「取組方針」**

「友好都市との交流」

コロナ対策を含めて様々な面から各事業を検証し、友好都市の魅力が十分に伝わる実施方法を検討します。

「姉妹都市との交流」

オンライン交流を継続的に実施するほか、平塚市国際交流協会等との連携により、市民主体の交流を推進していきます。

「多文化共生社会の推進」

職員が各職場において適切に「やさしい日本語」で対応できるよう実践的な研修を実施します。

「市民・大学交流」

市民、企業、大学等が相互に発展するため、事業実施結果の振り返りを踏まえ、事業内容の見直しや新規事業の提案、各部会間の調整を行います。